

平成28年度東京ヘリポート不法侵入対応及びハイジャック防止訓練

10月19日（水）警視庁東京湾岸警察署及び東京港管理事務所主催で、「東京ヘリポート不法侵入対応及びハイジャック防止訓練」を実施しましたので、ご報告いたします。

概要及び訓練内容は以下のとおりです。

- 訓練名 平成28年度東京ヘリポート不法侵入対応及びハイジャック防止訓練
- 日時 平成28年10月19日（水）
 - 第一部 通報訓練 13時30分から14時00分
 - 第二部 実地訓練 14時45分から15時30分
- 場所 スクエア・パターン・テスト場及びその周辺スポット
- 主催 警視庁東京湾岸警察署、東京港管理事務所
- 協力 東京ヘリポート安全連絡協議会、（一財）航空機安全運航支援センター（株）エグゼクティブプロテクション
- 訓練内容 ①通報訓練
②不法侵入対応及びハイジャック防止訓練

第一部の通報訓練では、東京ヘリポート内「不法侵入事案発生」との想定で、主に管理事務所と警備員とは無線で、東京ヘリポート内の22事業者（隊）及び関係機関には電話で、それぞれ通報訓練を実施しました。また、エプロン内にいる乗員、整備士には、避難を呼びかける場内放送を行いました。

第二部の実地訓練では、警備員がグラスエリアに潜む不法侵入者を発見。警備員は、侵入者を刺激しないよう声掛けや説得に専念しますが、警察車両の入場に刺激された侵入者が警備員の一人を刃物により人質にとり、逃走用の金品等を管理者に要求します。



○関係機関への通報訓練



○ハンガーを閉鎖し、異常の有無を点検中



○第一発見者の警備員は声掛けで対応



○応援警備員が合流

警察官による人質解放の説得に応じない侵入者に対し、威嚇発砲を行い、怯んだ侵入者から人質が逃げ、その後、警察官による侵入者の身柄確保、また、不審物の最終確認を行い訓練終了となりました。

なお、今回の訓練では、複数犯の可能性から、排水溝の点検や事業者（隊）によるハンガー内等の異常の有無を確認しましたが、単独犯による事案であると警察署が断定した想定としました。

東京ポートでは、訓練を通して、東京ヘリポート内事業者（隊）を始めとする関係機関との緊急事態発生時の連絡体制や保安体制の向上を図るとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてより一層ハイジャックやテロ犯罪の防止に努めていきたいと考えています。

最後に、訓練に参加された皆様、機体を提供していただいた新日本ヘリコプター（株）様に感謝申し上げます。



○警備員に代わって警察官が対応



○訓練の見学者



○爆発物処理班の調査



○訓練参加者・見学者全員で記念撮影

（東京港管理事務所港務課）